

平成24年1月28日宮城県石巻市荻浜中体育館にて 「荻浜・泊浜ありがとうの会」実施報告

平成24年1月28日(土)、バス使用のボランティア活動第5弾として小学生19名を含む40名、中型バス1台、バックアップ車1台で石巻市牡鹿半島荻浜中体育館に行き、少年野球チーム烏山クラブ及び烏山地区ガールスカウトの子どもたち(那須烏山市立烏山小、同七合小の2年生～5年生)と被災地の皆様との交流活動「荻浜・泊浜ありがとうの会」を行いました。

am4:00市役所を出発、am9:00過ぎに通過した被害の大きかった石巻市渡波地区はかなりきれいになっていましたが、初めて見る子どもたちにはかなり衝撃的な光景であることが彼らの表情で分かりました。順調にバスは進み、予定より20分以上早く9:40荻浜中体育館に到着。

心温まる交流活動を実施し、最後にほとんどが流失した荻浜地区の海岸に立ち寄り帰路に就きました。以下に活動状況を第7号として報告します。



拡大



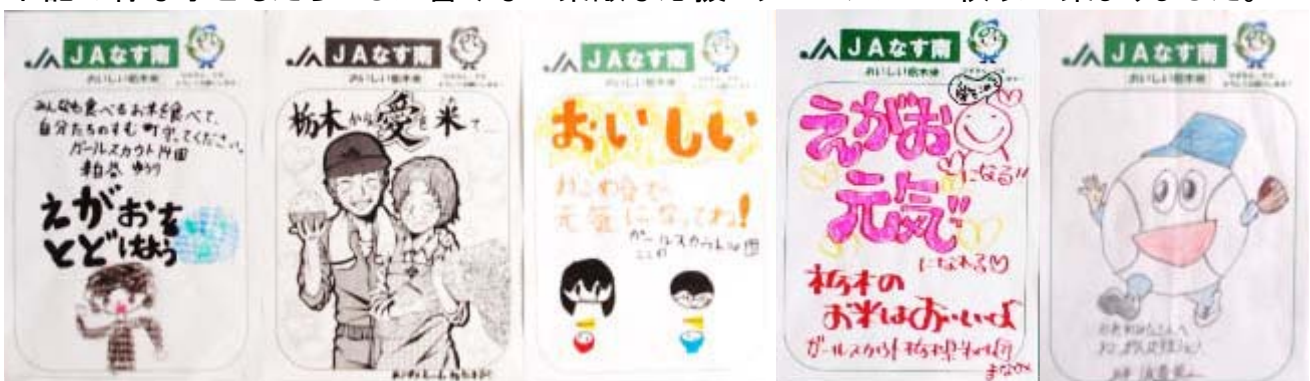
今回の交流会活動実現の背景

新米の時期にJA組合長が被災地支援として新米300Kgを提供してくださいました。

同様に市民の有志からも90Kgが届けられました。子どもたちの応援メッセージを付けて贈ることで温かな気持ちを届けられるのではないかと思います。チーム龍 JIN にガールスカウトの指導者や少年野球の監督など子どもたちと関わっているメンバーがいるので、趣旨を説明し応援メッセージを書いてもらうことにしました。地元の高校にも協力を依頼しました。

[子どもたちの素敵な絵付の応援メッセージ]

下記の様な子どもたちにしか書けない素敵な応援メッセージが50枚以上集まりました。



ガールスカウト

高校生福祉委員会

ガールスカウト

ガールスカウト親子

少年野球部

石巻市荻浜地区のボランティア活動日に栃木米と一緒に届けました。子どもたちの応援メッセージは全枚数を仮設住宅の皆さんに回覧して見て貰うことにしました。

別の活動日に石巻市泊浜地区にも栃木米と一緒に子どもたちの応援メッセージのコピーを届けました。



荻浜地区の皆様に栃木米と子どもたちの応援メッセージを手渡しました

【心温まるお礼の手紙が子どもたちに届く】

子どもたちのメッセージには大人たちの心を揺り動かす大きな力がありました。何人ものおじいちゃん、おばあちゃんから子どもたちにお礼の手紙が届きますが、最初に届いた荻浜の阿部さんの手紙には震災の辛さ、悔しさが綴ってあり、子どもたち全員の名前を書き、子どもたちの絵が如何に勇気と元気を与えてくれたかが切々と書いてありました。そしてこんなに優しい子どもに育ててくれたお母さんにありがとうと添えてありました。

キャプテンの私のところに回ってきたその手紙は、たくさんの親たちが回覧し何度も読んだためにボロボロになっていました。

多くの野球部の子どもたちはお礼の手紙を書きましたが、子どもたちや親御さんから「現地に行って直接お礼の気持ちを伝えたい」と提案されました。そこで子どもたちと現地の皆様との心通い合う交流活動構想を膨らませました。

【交流会実現のための調整に行きました】

荻浜地区の豊嶋区長さんや民生委員をされているリーダー格の江刺さんに交流会構想を説明した時、とても喜んでくれました。少し離れた泊浜の皆様も同様に喜んでくれました。

12月27日にカレンダーを届けに行った時、交流活動をお知らせするために阿部さんの荻浜仮設住宅を訪ねてびっくりしました。3枚の紙に子どもたち全員の応援メッセージと名前を書き取り、赤線を入れ壁に貼ってあるのです。「これは私の元気の源なのです」と話してくれた時、私は感極まりました。交流活動の会場は荻浜中学校が趣旨に賛同し体育館を貸してくれることになりました。

お礼として津波で汚れた体育館の窓ガラスを綺麗に掃除することにしました。

また、大阪出身の泊浜地区のおばあちゃんが今回の計画を聞いて、「子どもたちに私の得意な大阪お好み焼きを作ってあげたい」と言われた時、交流活動の成功を確信しました。



子どもたちのメッセージを壁に貼っていた荻浜の阿部さん

【子どもたちの交流活動のための合同練習会】

今回の交流活動名を「荻浜・泊浜ありがとうの会」と命名し、プログラムもほぼ決まった時点で烏山小学校体育館にて「よさこいソーラン」など本番さながらに、野球部及びガールスカウトの子どもたちと合同練習を行いました。みんなで歌いたいと思った童謡「ふるさと」や「赤とんぼ」はまだ習っていないということでもうまく歌えませんでした。これらの歌や栃木県の応援歌「走れとちまるくん体操」などの本格的練習を往きのバスの中で行うことを約束して1月28日出発の日を迎えました。



地元烏山小体育館で合同練習をしました

荻浜・泊浜ありがとうの会

往きのバスの中で歌や「走れとちまるくん」などを練習しましたが、びっくりする位ノリノリとなり、あっという間に覚えてしまいました。もうOKだよと言っても、まだやろうと声上がるほどでした。バス内の雰囲気盛り上がったまま荻浜中体育館に到着しました。



荻浜中では江刺さんや教頭先生が迎えてくれました

[全員で会の準備をしました]

会場設営と炊き出し及び体育館の窓掃除を約1時間で行いました。会場設営班はストープの回りに椅子を並べたり持参した音響設備をセットしたり、花リボンの飾りつけなどを行いました。炊き出し班は体育館の外で前日の午後、烏山公民館で下ごしらえした「おでん」と「豚汁」を仕上げました。同様に前日作った「おにぎり」も準備しました。野球部のお父さん中心の窓掃除班は持参した窓拭きワイパーを使い、津波で浸水し汚れたままの窓をきれいにふき取りました。津波被害が一目で分かる水位線が体育館の窓を一周していました。実際の窓掃除は外での作業で掃除中に水が凍ってしまう大変さでしたが、きれいになった窓を見て心まできれいになった気持ちになりました。



窓掃除など全員で準備しました

[約束通りお好み焼きが届く]

子どもたちが来るのを楽しみにしてくれていた大阪出身・泊浜の松川さんが自慢の「お好み焼き」を作って駆け付けてくれました。

会場準備が終わったご褒美に、松川さんの歓迎のあいさつの後いただきましたが、子どもたちは大喜びで何回もおかわりをしました。



泊浜の松川さんがお好み焼きを届けてくれました

[ありがとうの会スタート]

子どもたちの代表による司会のもと、いよいよ会がスタートしました。野球部代表の大和さんと荻浜の豊嶋区長さんからあいさつをいただいたあと、野球部の子どもたち3人がありがとうの気持ちを書いた手紙を読みました。



キャプテンの渡辺寛之君(烏山小5年)は

「みなさまからの手紙には『津波や地震でつらい思いをしているが、みんなで頑張っています』と書いてありました。野球の試合では仲間からの応援で勇気をもらっているので、みなさんを一生懸命応援し、勇気を出してもらえたらうれしいです」と朗読しました。

この後、子どもたちは自分の絵を持って一言コメントしながら自己紹介をしました。続き

て荻浜と泊浜の皆様も一人一人、今の思いを含めて自己紹介していただいたことで、参加者は心温まる思いになりました。

【メインイベント「よさこいソーラン」】

最初の出し物は「よさこいソーラン」です。一生懸命練習したこともあり体も動き、声も出て元気いっぱいの演技です。曲の最後のパフォーマンスである「えい～っ！」という掛け声と共に「がんばろう！ 牡鹿」の垂れ幕に大きな拍手が起こり、アンコールの声が即飛び出すほど素晴らしいスタートです。

続いてガールスカウトによる「ロックマイソウル」を現地の皆様と一緒にダンスを楽しみました。現地の皆様の一生懸命さに思わず笑ってしまいました。そして童謡「肩たたき」のBGMに乗って「あったかトントン肩たたきタイム」になりました。おじいちゃんやおばあちゃんの笑顔がとても印象的でした。

庄巻の「よさこいソーラン」



みんなで一緒に踊りました



気持ち良さそうな笑顔でとても温かな雰囲気でした

【食事タイム】

現地の皆さんが海の幸を使った料理を持ってきていただいたものと栃木から持参したおにぎり及び体育館の外で炊き出した「おでん」と「豚汁」で昼食となりました。

教頭先生を含む荻浜中の先生3人と生徒5人もこの会に参加してくれました。既に中学生は子どもたちと仲よしくなっていました。荻浜中は生徒15人の学校なので先生も含めて総勢の3分の1が参加してくれたことになります。男子生徒は野球部なので野球部の子どもたちとすぐに打ち解けていました。



食事の様子



荻浜中学生との交流も進みました

【食事後『走れとちまるくん体操』で再開】

栃木から運び込んだみんなを元気にする栃木のゆるキャラ「とちまるくん」の着ぐるみを野球のお父さんに着てもらいみんなで「走れとちまるくん」を元気に踊りました。実は12月30日、地元的那須烏山市岩子に建てられた栃木県唯一の仮設住宅の皆さんと龍 JIN メンバーとで、栃木県内に元気を発信しようと企画された栃木テレビのライブ放送がありました。龍 JIN メンバーとして野球部の子どもたちも応援出演し、その番組の中で歌手の「えりのあ」さんから「走れとちまるくん」の踊りを教えてもらったことが縁で、今回の会の中では是非やりたいと子どもたちからリクエストされた踊りなのです。



「とちまるくん」の登場

この曲もアンコールされましたが、とちまるくんの中に入ったお父さんは何度もジャンプし頑張ってくれました。中から出てきて挨拶された時は大きな拍手が起こり、さらに場が和みました。

【最後はみんなで輪になって歌った『赤とんぼ』、『ふるさと』】

プログラムの最後はバスの中で練習した「赤とんぼ」と「ふるさと」の歌です。もう最後なのかと思いながら歌いました。その後、全員が手に手を取って強く握り返しながら一つの輪になり、もう一度「ふるさと」を歌う場面ではみんなの胸に熱いものが込み上げてくるのを感じました。龍 JIN のメンバーも荻浜、泊浜のみなさんも荻浜中のみなさんも心が一つになっていると感じました。



手と手をつなぎ、みんなの心を一つの輪にして歌った「ふるさと」

【名残尽きないお別れ】

会が終わってからも親交を深め合えたおじいちゃんやおばあちゃん、そして荻浜中の生徒たちとの別れを惜しむ挨拶が果てしなく続き、永遠に終わらないのではないかと思う程でした。20分程遅れで最後に立ち寄る荻浜海岸を目指しました。



名残尽きないお別れ



心一つのままみんなで集合写真～みんなの表情を見てください

【荻浜海岸で津波被害を体感する】

子どもたちに被害の深刻さを知って欲しいと願い荻浜海岸に立ち寄ることにしていましたが豊嶋区長が案内を申し出てくれました。3.11の津波と台風15号の被害の様子、そして今復興に向けて少しずつ準備していることなど現物を示しながら説明してくださいまし

た。嬉しかったことは10月1日に龍第3弾バスボランティアで牡蠣の養殖のお手伝いした、わずか4か月目の牡蠣を取って準備してくれていたことです。牡蠣は2年目が旬ですが4か月の牡蠣も甘くてとてもおいしかったです。



被害を説明する豊嶋区長



準備してくれた4か月目の牡蠣

私達龍 JIN はほとんど役に立つようなお手伝いをしていないのにも拘わらず、こんなにももてなしてくれる人たちの想いに心打たれてしまいました。また来てくださいと言いながらバスを見送ってくださった中に、最後までずーっと手を振ってくれていた最初に手紙をくれた荻浜の阿部さん夫妻の姿を思い出すたびに、心が熱くなる交流活動「荻浜・泊浜ありがとうの会」でした。

〔心の籠ったたくさんのプレゼントの紹介〕

今回の交流活動のために用意してくれていたたくさんのプレゼントを紹介します。

最初にこの日の朝に網を仕掛けて獲った荻浜のカレイ7匹を届けてくれた豊嶋区長さん、発泡スチロールの箱の中で魚が暴れていました。皆さんに分けておみやげとして持って帰ってもらいました。同じように新山浜の阿部さん(たくさん阿部さんがいてややこしいのですが)は新鮮なタコを持ってきました。本文の中でも紹介した泊浜の松川さんは得意の大阪お好み焼きを焼いて持ってきました。また、最初に手紙をくれた荻浜の阿部さんは二枚貝を可愛い布でカバーリングした手作りの鈴付ストラップ45個を持ってきました。

最後は荻浜海岸で4か月目の牡蠣を準備して待っていてくれたプレゼントです。

こんなにも温かく迎えてくれる皆様にまたまた大きな嬉しい借りをもらった思いです。

龍 JIN 側も紹介します。野球部の長谷川さんの実家が静岡の三ヶ日ということでおいしい三ヶ日みかん5箱を持参しました。また、野球部の羽石さんのおばあちゃんとお母さんとで中に鈴を入れて鐘をモチーフにした毛糸の編み物30個を作り、幸せになって欲しいとの願いを込めてプレゼントしました。

どれもこれも形こそ異なれ、心の籠ったプレゼントであり、一つ一つが思い出いっぱい宝物でした。ありがとうございました。



三ヶ日みかんの長谷川さん



4か月目の牡蠣



阿部さんの貝のストラップ



幸せ呼ぶ羽石さんの毛糸の鐘

〔参加されたみなさんの感想紹介〕

いつもの通り帰りのバスの中で感想を話してもらいました。子どもたちは楽しかったことと嬉しかったことをそれぞれ話してくれました。やはり参加してくれたお父さんお母さんが「心の通った交流に思わず目頭が熱くなりました」という感想が全てを物語っていると思いました。

これからも多くの人を巻き込んで心に寄り添うボランティア活動を続けていきます。ご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

龍 JIN マスコット

